



本工法は、カッタ部を自転・公転方式とし、3軸の自転偏芯ビットとそれらを受け持つ公転ギヤにより矩形断面全体を一度に掘削する機械を可能としました。そのため、従来工法による周辺環境への影響や施工費等の多くの問題を解決することが可能となり、切羽の安定や地盤の緩みに対して安全で迅速かつスムーズな掘進を可能と致しました。

●本工法の追求テーマ●

- ① 経済性
- ② 工期短縮
- ③ 狭路施工技術
- ④ 地表面への影響低減
- ⑤ 高品質地下空間の形成

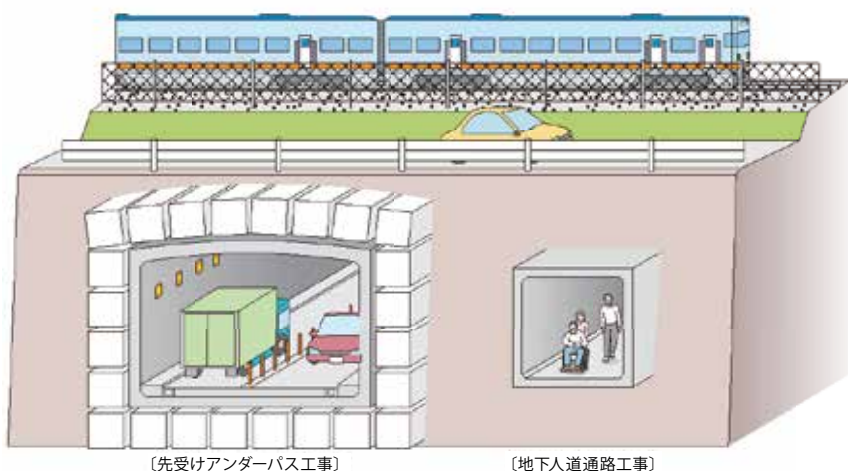
ボックス推進工法の特徴及び活用例

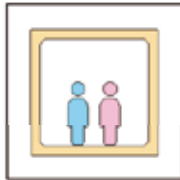


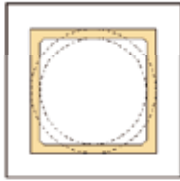
■ボックス推進工法の特徴

- 低土被り推進が可能
- 長距離・曲線推進が可能
- PC・RCボックス函体および角鋼管に対応可能
- 密閉式のため切羽の安定性に優れ、地山の緩みを防止可能
- 高トルク掘進機のため、多様な土質に適用可能
- 工場製品のボックス函体を直接推進するため、迅速な施工が可能

■ボックス推進工法の活用例

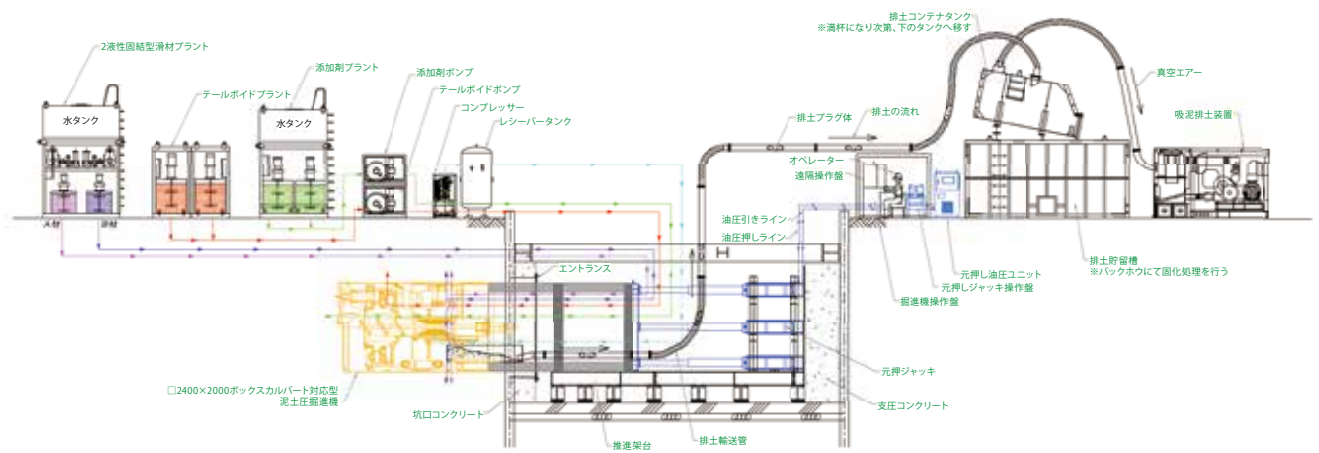
- 開かずの踏切の解決策として、軌道下の人道通路の構築
- 高速道路盛土区間の横断通路の構築
- 必要流量を確保した下水函渠・雨水函渠の構築
- 電力函路や通信函路の構築
- 先受け大断面アンダーパス工事の構築



<p>地下人道通路</p>  <p>地下人道用の通路構築工法として最適です。</p>	<p>大断面横断道路</p>  <p>先受けアンダーパス工事が容易です。</p>
<p>共同溝</p>  <p>ボックス構造のため維持管理が容易です。</p>	<p>ボックス雨水渠</p>  <p>同一外径でも内空断面が大きくとれます。 有効断面積 (BOX:円型)=1:0.785</p>

ボックス推進工法

ボックス推進工法 概念図(参考図)



工場製品のボックスカルバート函体を直接施工することで、有効断面の確保と迅速な管路構築が可能です。